2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　株式会社フォーサイド　　上場取引所　東
コード番号　2330　ＵＲＬ　https://www.forside.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役　（氏名）大島　正人
問合せ先責任者　（役職名）常務取締役　（氏名）大島　崇　ＴＥＬ　03(6262)1056

配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	4,806	△29.2	124	△63.1	132	△62.4	68	△79.0
2025年12月期第３四半期	6,786	86.2	337	－	351	－	323	－

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　68百万円（△78.6%）　2025年12月期第３四半期　318百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	1.56	－
2025年12月期第３四半期	7.48	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年12月期第３四半期	4,616	3,041	65.9	69.77
2025年12月期	4,722	2,973	63.0	68.21

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　3,041百万円　2025年12月期　2,973百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2026年12月期	－	0.00	－		
2026年12月期（予想）				－	－

（注）１．直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
　　２．2026年12月期の配当予想は今後の業績見通し等を踏まえて判断することにしているため未定であります。

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,998	△30.9	108	△72.4	114	△72.1	80	△78.3	1.85

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
②　①以外の会計方針の変更　：無
③　会計上の見積りの変更　：無
④　修正再表示　：有

（注）詳細は、添付資料P. ９「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（追加情報）」をご覧ください。

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	43,687,704株	2025年12月期	43,687,704株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	96,874株	2025年12月期	96,134株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	43,591,165株	2025年12月期３Ｑ	43,246,432株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。実際の業績等は今後の様々な要因によって予想と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書 …… 7
四半期連結包括利益計算書 …… 8
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（追加情報） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 12
（継続企業の前提に関する注記） …… 12
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 12
（収益認識関係の注記） …… 12

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

下記文中の比較分析等は遡及修正後の数値に基づいて記載しております。詳細は、P.９「２．四半期連結財務諸表及び主な注記（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項（追加情報）」をご覧ください。

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、賃上げによる雇用・所得環境の改善や円安を背景としたインバウンド需要の拡大に加え、ガソリン暫定税率の廃止や電気・ガス代への補助といった物価高対策を受けた個人消費の持ち直し等により、緩やかな回復基調で推移しました。また、少子高齢化等による人手不足の進行に伴い、生成AIの活用をはじめとするDX関連投資も増加の傾向にあります。一方で、米国の通商政策の今後の展開を巡る不確実性の高まりや、中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格や原材料価格の上昇など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域であるプライズ事業を含むアミューズメント市場におきましては、外国人観光客の増加や技術の進化などに伴い、アミューズメント施設の集客も好転しておりますが、引き続き人件費の高騰や電気料金の度重なる値上げによるコストの増加、円安基調の継続による仕入コストの上昇等、厳しい事業環境が続いております。

人材関連ビジネス業界におきましては、我が国では急速な少子高齢化の進行に伴い、労働力人口の減少が長期的な課題となっております。2026年９月の有効求人倍率は、1.18倍と2025年９月から0.02ポイント減少したものの、2014年以降は求人倍率が１倍を超えて推移しており、人材不足は引き続き事業者にとって大きな課題となることが予想されております。特に医療業界や物流業界及びIT業界において即戦力となる人材不足が深刻となっており、人材サービス業界へのニーズはさらに高まっていくものと考えられます。

情報通信分野におけるAIの市場概況におきましては、我が国におけるAIシステム市場規模（支出額）は、2025年に2兆3,725億円となっており、同市場の2024年～2029年の年間平均成長率（CAGR：Compound Annual Growth Rate）は36.0%で推移し、2029年の市場規模は2025年比で2.9倍の6兆8,897億円に拡大していくものと予測されております。

このような経済状況の中、当社グループにおいては、主力事業であるプライズ事業・総合人材サービス事業を中心に事業収益の拡大を図ってまいりましたが、一部事業の縮小に伴い全体の収益は減少しております。

これらの結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は4,806,580千円（前年同期比29.2%減）、営業利益は124,765千円（前年同期比63.1%減）、経常利益は132,053千円（前年同期比62.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は68,092千円（前年同期比79.0%減）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①プライズ事業

プライズ事業につきましては、株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第３四半期連結累計期間においては、キャラクターグッズや雑貨系商材を中心に受注件数が堅調に推移し、外国人観光客の増加等により、アミューズメント施設の集客が好調となり、売上高は前年同期を上回りました。また、円安の進行及び輸送費や原材料費が高騰する中、継続した原価低減策により原価率を前年同期と同水準に維持した結果、セグメント利益が増加いたしました。

以上の結果、売上高は2,946,970千円（前年同期比18.7%増）、セグメント利益は305,173千円（前年同期比19.2%増）となりました。

②コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、主に株式会社ポップティーンが電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行っております。

当第３四半期連結累計期間においては、電子書籍配信サイト「モビぶっく」において、引き続き広告宣伝費の抑制に努めながらも、費用対効果の高いプロモーション施策を継続することで、新規顧客の獲得に努めてまいりました。また、既存ユーザーに対しては、取扱い作品数の拡充やサイトのユーザビリティの向上を図ることで、顧客継続率を高めるための施策を行いましたが、安定的な顧客の獲得には至らず、セグメント損失は拡大いたしました。

以上の結果、売上高は44,961千円（前年同期比28.5%減）、セグメント損失は10,134千円（前年同期はセグメント損失5,903千円）となりました。

③イベント事業

イベント事業につきましては、株式会社ブレイクが各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第３四半期連結累計期間においては、大型イベントが少なかったことから、セグメント利益の獲得には至りませんでした。

以上の結果、売上高は65,479千円（前年同期比66.4%減）、セグメント損失は17,533千円（前年同期はセグメント利益12,737千円）となりました。

④マスターライツ事業

マスターライツ事業につきましては、主に株式会社ポップティーンが出版事業を行っております。

当第３四半期連結累計期間においては、ティーン向け雑誌「egg」とコラボレーションした「Pop egg」の刊行、「Popteen専属モデル次世代スター決定戦」の開催、女子小中学生向け雑誌「Cuugal」の発売を実施しました。継続的なブランド認知度向上に努めた結果、複数の新規案件を獲得し、売上高が増加したことに伴い、セグメント利益の獲得に至りました。

以上の結果、売上高は151,866千円（前年同期比29.6%増）、セグメント利益は14,741千円（前年同期はセグメント損失12,959千円）となりました。

⑤AI関連事業

AI関連事業につきましては、株式会社AI Tech SolutionsがAIを活用した事業効率化ツールの開発、AI開発支援向けGPUサーバーの販売を行っております。

当第３四半期連結累計期間においては、GPUサーバー販売の事業縮小に伴い売上高が大きく減少いたしました。

以上の結果、売上高は25,000千円（前年同期比99.1%減）、セグメント損失は7,282千円（前年同期はセグメント利益199,194千円）となりました。

⑥物流関連事業

物流関連事業につきましては、株式会社antz及び株式会社エムが一般貨物自動車運送事業及び貨物利用運送事業を行っております。

当第３四半期連結累計期間においては、前年第３四半期から株式会社antzが物流関連事業に参入したことに伴い、売上高は拡大しております。一方で、燃料費の高騰等によるコスト増加により、セグメント損失は拡大いたしました。なお、株式会社エムについては、実態を伴わない運送実績に基づく売上計上が行われていた疑義を認識したことを受け、受注を停止しております。

以上の結果、売上高は291,100千円(前年同期比97.8%増)、セグメント損失は2,066千円(前年同期はセグメント損失618千円)となりました。

⑦総合人材サービス事業

総合人材サービス事業につきましては、2025年３月31日に株式会社antzを完全子会社化したことに伴い、前年第２四半期より事業を開始しており、当該子会社が一般労働者派遣及び作業請負業務等を行っております。

当第３四半期連結累計期間においては、既存の顧客の需要開拓に加えて、新規の顧客開拓を推進したことにより、売上高は堅調に推移したものの、利益面ではのれん償却費を吸収しきれず、セグメント損失となりました。

以上の結果、売上高は1,281,200千円(前年同期比45.0%増)、セグメント損失は4,068千円(前年同期はセグメント利益12,601千円)となりました。

（２）当四半期の財政状態の概況

①総資産

当第３四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて106,463千円減少し4,616,100千円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金の増加298,284千円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少383,675千円、商品の増加85,218千円、短期貸付金の減少59,659千円、のれんの減少49,759千円等によるものであります。

②負債

当第３四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて174,579千円減少し1,574,605千円となりました。主な要因といたしましては、支払手形及び買掛金の減少31,838千円、未払金の減少87,509千円、未払法人税等の減少25,036千円、前受金の減少24,009千円等によるものであります。

③純資産

当第３四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて68,116千円増加し3,041,494千円となりました。主な要因といたしましては、親会社株主に帰属する四半期純利益68,092千円を計上したことによるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期連結業績予想につきましては、2026年２月13日に公表しました業績予想に修正はありません。

なお、本資料に記載されている業績予測等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績等は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,228,134	2,526,419
受取手形、売掛金及び契約資産	1,235,474	851,798
商品	120,804	206,023
前渡金	84,873	55,089
短期貸付金	160,529	100,869
その他	67,634	76,955
貸倒引当金	△736	△64
流動資産合計	3,896,715	3,817,091
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	33,223	31,520
土地	2,977	2,977
その他（純額）	61,601	84,983
有形固定資産合計	97,803	119,482
無形固定資産		
のれん	281,968	232,209
ソフトウエア	9,128	3,069
その他	0	0
無形固定資産合計	291,097	235,278
投資その他の資産		
投資有価証券	174,532	174,532
長期貸付金	2,070	2,527
敷金	73,304	73,974
保険積立金	155,194	164,647
長期未収入金	7,187	7,187
その他	31,843	28,564
貸倒引当金	△7,187	△7,187
投資その他の資産合計	436,946	444,246
固定資産合計	825,847	799,008
資産合計	4,722,563	4,616,100

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	250,612	218,773
未払金	324,129	236,619
未払法人税等	50,320	25,283
前受金	31,752	7,743
１年内返済予定の長期借入金	250,067	251,962
その他	294,313	242,150
流動負債合計	1,201,194	982,532
固定負債		
長期借入金	530,179	528,708
その他	17,811	63,365
固定負債合計	547,990	592,073
負債合計	1,749,185	1,574,605
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	1,448,402	1,448,402
利益剰余金	1,525,751	1,593,844
自己株式	△19,779	△19,861
株主資本合計	2,964,374	3,032,385
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	9,003	9,109
その他の包括利益累計額合計	9,003	9,109
純資産合計	2,973,377	3,041,494
負債純資産合計	4,722,563	4,616,100

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	6,786,540	4,806,580
売上原価	5,344,939	3,350,820
売上総利益	1,441,601	1,455,759
販売費及び一般管理費	1,103,721	1,330,994
営業利益	337,879	124,765
営業外収益		
受取利息	15,762	15,670
貸倒引当金戻入額	60	130
受取賃貸料	－	6,069
保険解約返戻金	9,918	－
その他	1,842	1,164
営業外収益合計	27,584	23,035
営業外費用		
支払利息	11,133	14,853
為替差損	103	707
株式交付費	1,981	－
その他	607	186
営業外費用合計	13,825	15,747
経常利益	351,638	132,053
特別利益		
固定資産売却益	11,886	5,214
特別利益合計	11,886	5,214
特別損失		
固定資産除却損	0	7
減損損失	－	4,223
特別調査費用等	－	43,404
特別損失合計	0	47,636
税金等調整前四半期純利益	363,524	89,631
法人税、住民税及び事業税	43,431	22,690
法人税等調整額	△3,459	△1,152
法人税等合計	39,971	21,538
四半期純利益	323,552	68,092
親会社株主に帰属する四半期純利益	323,552	68,092

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	323,552	68,092
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△4,649	106
その他の包括利益合計	△4,649	106
四半期包括利益	318,903	68,199
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	318,903	68,199

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（追加情報）

（当社連結子会社における不正について）

当社連結子会社である株式会社エムが行う貨物利用運送事業の一部取引について、実態を伴わない運送実績に基づく売上計上が行われていた疑義を認識しました。これを受け、当社は2026年５月29日付で、当社と利害関係を有しない外部の弁護士を委員長とし、同様に利害関係を有しない外部の公認会計士及び当社常勤監査等委員（独立社外取締役）を委員とする特別調査委員会を設置して調査を開始し、同年８月５日に同委員会より調査報告書を受領しました。

その結果、当該連結子会社において、貨物利用運送の委託事業者及び受託事業者との間で取引の実在性を確認できないものについて代金の受領及び支払いがなされていた事実が判明しました。当該事実の発覚に伴い、取引の実在性を確認できない売上高の取り消しを行い、預り金に振り替えております。

なお、過年度の各期における取り消し額が各期の連結財務諸表等に及ぼす影響の重要性を考慮した結果、本第３四半期決算短信に表示される過年度数値の修正再表示を行っております。

本事案による影響額は、以下のとおりです。

回次	第26期 第３四半期連結累計期間	第27期 第３四半期連結累計期間	第26期
会計期間	自2025年１月１日 至2025年９月30日	自2026年１月１日 至2026年９月30日	自2025年１月１日 至2025年12月31日
期首利益剰余金（千円）	△35,102	△104,608	△35,102
売上高（千円）	△55,950	△9,372	△69,506
営業利益（千円）	△55,950	△9,372	△69,506
経常利益（千円）	△55,950	△9,372	△69,506
親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益（千円）	△55,950	△9,372	△69,506
預り金（千円）	100,157	125,379	115,069
１株当たり純資産額（円）	△2.09	△2.61	△2.40
１株当たり四半期（当期）純利益（円）	△1.29	△0.22	△1.60

当社は、当該特別調査委員会による調査結果を踏まえ、再発防止策を確実に実行し、今後、このような不適切な取引が発生することが無いよう、最優先課題として、信頼回復に向けて全力で取り組んでまいります。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自2025年１月１日 至2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント						
	プライズ	コンテンツ	イベント	マスターライツ	AI関連	物流関連	総合人材サービス
売上高							
顧客との契約から生じる収益	2,483,041	62,874	195,085	117,153	2,897,800	147,187	883,397
外部顧客への売上高	2,483,041	62,874	195,085	117,153	2,897,800	147,187	883,397
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	1,600	－	3,471	－	186	4,765
計	2,483,041	64,474	195,085	120,625	2,897,800	147,373	888,163
セグメント利益又はセグメント損失(△)	255,988	△5,903	12,737	△12,959	199,194	△618	12,601

（単位：千円）

	合計	調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
売上高			
顧客との契約から生じる収益	6,786,540	－	6,786,540
外部顧客への売上高	6,786,540	－	6,786,540
セグメント間の内部売上高又は振替高	10,023	△10,023	－
計	6,796,564	△10,023	6,786,540
セグメント利益又はセグメント損失(△)	461,041	△123,161	337,879

（注）１．セグメント利益又はセグメント損失（△）の調整額△123,161千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益又はセグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

（事業の新設）

当社は、2025年３月31日付で、株式会社antzの株式を取得したことにより、第１四半期連結会計期間から「総合人材サービス」事業を新たに報告セグメントに追加しております。

３．報告セグメントごとの資産に関する情報

第１四半期連結会計期間において、株式会社antz（2025年３月31日株式取得）を連結子会社化したことにより、前連結会計年度の末日に比べ、「総合人材サービス事業」セグメントの資産の金額が1,150,024千円増加しております。

４．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「総合人材サービス事業」セグメントにおいて、株式会社antz（2025年３月31日株式取得）を連結子会社化したことにより、第１四半期連結会計期間において、のれんが331,728千円発生しております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自2026年１月１日 至2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント						
	プライズ	コンテンツ	イベント	マスターライツ	AI関連	物流関連	総合人材サービス
売上高							
顧客との契約から生じる収益	2,946,970	44,961	65,479	151,866	25,000	291,100	1,281,200
外部顧客への売上高	2,946,970	44,961	65,479	151,866	25,000	291,100	1,281,200
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	7,126
計	2,946,970	44,961	65,479	151,866	25,000	291,100	1,288,327
セグメント利益又はセグメント損失(△)	305,173	△10,134	△17,533	14,741	△7,282	△2,066	△4,068

（単位：千円）

	合計	調整額（注）１	四半期連結損益計算書計上額（注）２
売上高			
顧客との契約から生じる収益	4,806,580	－	4,806,580
外部顧客への売上高	4,806,580	－	4,806,580
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,126	△7,126	－
計	4,813,706	△7,126	4,806,580
セグメント利益又はセグメント損失(△)	278,828	△154,062	124,765

（注）１．セグメント利益又はセグメント損失（△）の調整額△154,062千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

２．セグメント利益又はセグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれん償却費は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	47,409千円	50,874千円
のれん償却費	33,172千円	49,759千円

(収益認識関係の注記)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は「注記事項（セグメント情報等の注記）」に記載のとおりであります。